

受賞者：和光地区自治会 （岩手県胆沢郡金ヶ崎町）

天皇杯
受賞年：平成5年



むらづくりの経緯

- ・当該地域は、旧満州から引き揚げ後、昭和23年に入植した開拓地。
- ・入植当初は、班別生産体制をとり、寝食をともにした共同作業で開墾し、穀作農業を行っていたが、昭和28年の大冷害と昭和29年の凍霜害を契機に酪農経営へ転換した。
- ・酪農は規模拡大と乳価安定等により安定した経営の実現の他、地域づくり活動の活発化に伴い、和光地区自治会が組織された。

受賞当時

生産活動の特色

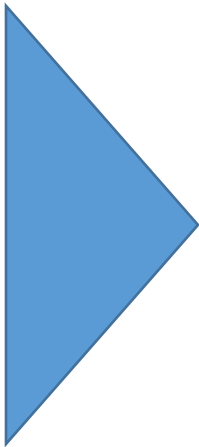
- 酪農経営については、昭和55年から大型機械を導入し、共同利用による一貫生産体系による安定的な経営を確立した。
- 昭和58年には県下初の酪農ヘルパー利用組合を設立し、休日のある酪農経営を実現した。
- 「農地調整委員会」を設置し、農地の利用現状図を作成し、耕作放棄地の解消と大規模な農地の団地化に取り組みつづける。

地域づくりの特色

- 地区の自治会に、5つの専門部を設置し、独自の活発な自治会活動の展開により、世代を越えた人の輪づくりにもなっており、老若男女をつつむ真の生涯学習の場にもなっている。また、高齢化社会が進展する中、福祉問題にみんなに関わろうとする意識が醸成されており、先駆的な活動となっている。
- 中高生の受入れを行い、都市住民との交流による地域活性化が図られている。

～受賞直後の効果～

- ・受賞したことにより地区住民が生まれ、取組を継続しようとする意識が強まった。



現在

評価ポイントの取組状況

- 酪農戸数は減少したが、一戸当たりの飼養頭数は増加しており、経営の安定化と後継者の育成が図られている。
- 酪農ヘルパー制度の利用や、コントラクターを利用した自給飼料の確保など酪農の分業化により、ゆとりある酪農経営を行っている。
- 地元で生産する生乳のおいしさを発信するため、地区の有志によりジェラート店「牧草の丘」を出店し、消費者との交流を図っている。
- 地区の集会所敷地内に公園を整備し、子どもや高齢者、障がい者が集う交流の場とすることで、地区住民の触れ合いの機会を設けている。

今後の展開

- ジェラート販売をさらに拡大し、都市農村交流を広げる。
- 地域内の子供からお年寄りまで参加する交流イベントを開催し、地域住民同士のつながりの維持や、福祉の心を育むために、地域の子供と地区内の障がい福祉利用者との交流を図りながら地域活性化に貢献していく。

受賞者：大見集落

(熊本県宇城市不知火町)

日本農林漁業振興会会長賞
受賞年：平成5年

日本農林
漁業振興
会会長賞

むらづくりの経緯

- ・宇城市不知火町（旧不知火町）の南西部に位置する戸数123戸の集落。果樹の先進産地であり、不知火海に面する丘陵地帯に柑橘類が、沿岸の平坦部にハウスぶどうが栽培されている。
- ・米、麦、かんしょの農業から、果樹導入による農業所得の向上を目指して、「大見果樹組合」をS27年に設立。果樹園の造成、園内作業道の整備を集落ぐるみで取り組むとともに、世代別・男女別に様々な研究グループが組織され、技術研鑽や生活改善など多彩な組織活動を展開。

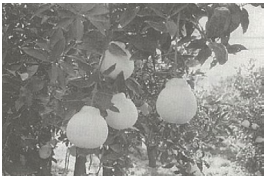
受賞当時

生産活動の特色

- S38～40年に果樹園を造成し、みかんの栽培面積を飛躍的に拡大するとともに、水田を転換しハウスぶどう（巨峰）を導入。みかんと組み合わせた収益性の高い果樹の複合経営を確立。
- 農協指導員を講師とした勉強会、果樹の品目ごとに行われる販売単価の最優秀者の表彰など栽培技術の向上を推進。
- 共同作業による園内道の舗装化、ぶどうハウスのビニール張りなど集落ぐるみで省力化を推進。
- 産地間競争に対応するため、市場性の高いデコポン（品種名「不知火」）への切り替えを推進。



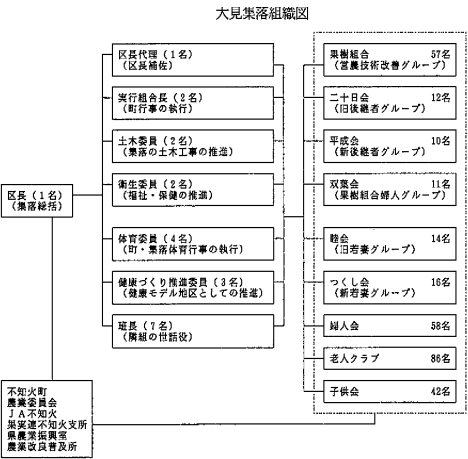
稲作転換で導入された
ハウスぶどう



かんきつの次代を担うデコポン

地域づくりの特色

- S40年から月2回の農休日を導入。S59年からは月3回に拡大。農休日の導入等ゆとりある暮らしへの取組が農業後継者とその花嫁の確保に寄与。
- 昔ながらの石垣や生け垣の景観が保全されているとともに、年3回住民総出による排水路等の清掃など美しいむらづくりを推進。
- 1月の「どんじゃ」、4月の「すももの花見」、9月の「八朔祭り」が継承されているとともに、住民総参加のスポーツ大会を実施。



現在

評価ポイントの取組状況

- 大見果樹組合の活動状況
大見をまもり隊とともにイノシシ・カラス対策として罠の設置を行っている。
- 柑橘類（デコポン）、ぶどうの生産状況。
生産は行っているが、生産面積としては減少傾向にある。
- 後継者の確保状況
14名の構成員からなる大見果樹青年同志会を結成。
- 景観保全等の活動状況
花植えや草刈り等の保全活動を年3回程度行っている。
- 祭りやスポーツ大会等の実施状況
どんじゃ、植え付け祭、グラウンドゴルフ大会などを年数回程度行っている。



今後の展開

農業後継者の確保を行いながら、集落一体となった営農や保全活動、伝統文化の継承を引き続き推進していく。